

ISSN 1882-9511

愛知学院大学薬学会誌

第4巻 2011年12月

THE AICHI-GAKUIN JOURNAL OF PHARMACEUTICAL SCIENCES

VOLUME 4 DECEMBER 2011

愛知学院大学薬学会
THE AICHI-GAKUIN SOCIETY OF
PHARMACEUTICAL SCIENCES
NAGOYA JAPAN

巻 頭 言

「Hope」と「Science」

薬学部長 樋 彰

2011年3月11日、日本は最大級の天災に見舞われた。東日本大震災と併発した大津波である。その結果、ある意味日本の心臓の一部ともいえる原子力発電所が危機的状況に陥った。2012年1月になっても未だ収束には至っていない。

「原子力」と言う言葉には思い出がある。1991年5月20日早朝にParis・Charles de Gaulle空港に向けて飛び立った。当時、富山医科薬科大学（現富山大学）医学部薬理学教室（前任地）とフランス・CNRS神経生理研究部門で「呼吸リズム形成におけるグルタミン酸作動性神経伝達機序」について共同研究をしていたので、訪問研究員として現地（Gif-sur-Yvette）に赴くためである。Gif-sur-YvetteはParisの郊外にある田舎町で、ホテルが数軒しか無かった。資金も潤沢ではなかったため、到着後しばらくの間はCNRSから徒歩5分ほどのゲストハウス（CEAと呼ばれていた）に滞在し、その後はあるフランス人宅に間借りした。聞くところによると、CEAは原子力に関する研究所に附属した施設の一部であった。フランスは原子力発電依存率が高く、関連した施設が充実していたので、その恩恵にあずかったことになる。翌年、CNRSからDr. Pierreficheが来校し、共同研究を続けた。その成果をJournal of Physiology (London)に掲載することができた。1995年に、関連テーマが国際学術共同研究（文部科学省科学研究費）に採択された。この時は資金が十分あったので、Paris市内のMontparnasse駅に近いAcacias Saint-Germain Hotelに滞在した。研究は順調に進み、その成果を再びJournal of Physiology (London)に掲載できた。

さて、2012年3月には6年制薬学教育を受けた第一期生が卒業する。直近で気になることは、国家試験の合格率である。しかし、社会の期待は知識を詰め込んだだけの薬剤師ではなく、それを最大限利用した論理的思考に基づき難題を解決する実践力を備えた人間である。卒業生の活躍を期待する。一方、2012年4月には4年制大学院薬学研究科がスタートし、また、薬学部附属の「医療生命薬学研究所」も設置される。高度な教育と研究活動を充分に行い、その成果を発信するとともに博士力を身につけた人間を世の中に送り出すことも大学の重要な使命である。多くの大学院生の入学を望む。

震災からの復興のキーワードは「Hope」で、「Hope is a wish for something to come true by action.」であると某大学教授が新聞紙上で述べていた。薬学の発展のキーワードは「Science」で、「Science is a strategy for testable perspectives to make clear by action.」であると思う。愛知学院大学薬学部の更なる飛躍を願う。

目 次

巻頭言 「Hope」と「Science」
薬学部長 樋 彰

医療薬学教育における臨床技能実習の必要性：擬似的バイタルサイン測定に 基づくフィジカルアセスメント実習プログラムの改善	1
岩本喜久生、浦野公彦、巽康彰、上井優一、林久雄、杉山成司、 服部亜衣、石丸宗徳、恒川由己、本条宏旭、里中華、 斉藤峻、藤中沙奈恵、本田美奈子、横山国大	
ウィルソン病の動物モデルであるLECラット肝細胞ライソゾームでの銅と鉄の蓄積	9
鈴木瑛子、服部亜衣、巽康彰、林久男	
学会・研究会報告	
薬学教育協議会フォーラム2011全国学生合同フォーラムについて	13
浅野尚光	
日本薬学会第1回全国学生ワークショップ報告書	15
徐勇	
黄連含有イソキノリンアルカロイドの脂肪細胞分化抑制作用に関する機序解析	17
片桐由里絵、小谷仁司、田邊宏樹、井上 誠	
検出困難なマイナー菌群を含む口腔内細菌叢の多様性解析について	19
神谷保吉、藤高由貴、富田純子、森田雄二、河村好章	
<i>Helicobacter cinaedi</i> のヒト臨床分離株と動物分離株の遺伝学的解析	21
藤高由貴、神谷保吉、富田純子、森田雄二、河村好章	
有機アニオントランスポーターOAT1とOAT3に 対するシクロオキシゲナーゼ-2選択的阻害薬の影響	23
本庄 宏旭	
ヒト滑膜肉腫細胞におけるOrai1による細胞内Ca ²⁺ 制御	25
鈴木翔太、鈴木裕可、波多野紀行、村木由起子、村木克彦	
愛知学院大学大学院薬科学研究科1期生 修士論文要旨集	27
薬学部医療薬学専攻 二期生 卒業論文課題一覧	59
講座紹介・業績リスト	65
薬学会会則	115
投稿規定	118